



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」

4月1日よりホームページが移転・リニューアルしました。ブックマークの変更や再登録をお願いします。



高岡市立戸出東部小学校
令和5年12月11日発行

107歳まで生きる確率・50%

教頭 渋谷 圭祐

正確には、この確率が当てはまるのが2007年生まれの人だそうで、現在の高校1年生となります。現在小学生の子供たちは、確率がより高くなる(または、107歳より年齢が上がる)と考えられます。ちなみに、19世紀以降、平均寿命は10年ごとに2~3年のペースで上昇しており、(このペースを当てはめると)1967年生まれは92~96歳、1957年生まれは89~94歳(まで生きる確率が50%)となるそうです。このことは、今を生きる子供たちが私たち大人より「自由な時間を使って豊かな人生を送れる」とポジティブに考えることもできますが、そのためには社会人になる以前から、そのことを念頭に、生き方や生きがいについて考えておくことが必要になるといえます。

今、時代は激変の最中にあり、多様性やSDGsが重視され、これまでのやり方が次々と見直されています。そんな時代に求められるのは、目標を自分で見付け、やる気を示せる人、アイデアがあって、情熱のある人です。そして、AIにはない、自分で課題を設定したり、指示なしでも試行錯誤したりする能力です。こうした能力は、仕事で活躍すること以上に、予測困難な社会を、自分らしく幸せに生きていくために重要なのです。自分でやりがいを見付けて楽しむ力があれば、長い人生において、プライベートでも人に流されることなく、生き生きと過ごすことができるでしょう。では、そのために子供に大切なことは何か、そう考えて、私たち教員も模索し続けています。

6年生は、卒業までの歩みを、今までの先例にとらわれずにゼロベースで見直し、自分たちで考え、思いや願いを伝え合い、意味を話し合い、アイデアを出し合い、合意形成しています。受け身の学校生活でなく、協働し、主役となってつくりあげていく学校生活を目指しています。

5年生は、防災について学んできました。お年寄り等が、災害時に逃げ遅れないためには、どうすればよいか。誰もが災害を正しく恐れるために、自分たちはどんなことができるか。想像をふくらませて考え続け、地域へ発信する準備を進めています。

(※12/19(火)13:45~地域の方を招いて防災フェスティバルを開催します)

4年生は、保育園児を学校に招いて、いろいろな遊びや学びの時間を共有しました。園児たちの表情が、何よりも嬉しい褒め言葉となり、子供の自信と成長につながっていました。

また、4・5年生はアイデアを出し合い、私たちの想像をはるかに超えるダンスを生み出し、苦手な子供も巻き込み休み時間返上で練習しています。完成度の高さを披露する日が楽しみです。

(※発表会は12/23(土)、ダンスコンクール全国大会本選は12/26(火)です)

3年生は、万葉小学校の3年生と交流し、伝える相手を意識して発表を工夫しただけでなく、友達と関わる楽しさを改めて実感しました。交流や発表を通じて、戸出をより深く知り、級友との絆をより深めたようです。さらに、感謝の思いが詰まった手紙をもらって、もっとやりたい、もっと学びたい、という気持ちが高まっています。

2年生は、店で売っているような既製のおもちゃではなく、試行錯誤しながら手作りのおもちゃを完成させました。そして、夢中になって遊んだ体験が、さらなる成長につながっています。自分がやりたいと思うからこそ、子供は積極的に行動し、いつの間にか自然に努力や忍耐力を発揮していました。

1年生は、子供の思いを大切に、担任はもちろん、校長からスクールサポートスタッフまで、多くの教職員が聞き手となり、遊び相手となって関わり、毎日を送っています。子供が夢中になっている遊びや、創造力豊かなたくさんの作品を、今後近隣の保育園児にも紹介する予定です。

縁あって、生活科や総合的な学習の時間の研究の一翼を担ってきましたが、子供の姿から私たちが学び、私たちの自信につながっています。また、学校の魅力や価値を再確認するとともに、授業や学習が子供にとってどうあるべきなのか、そのヒントを得ることができたように感じます。

豊かに生きる基礎となる力を子供にしっかり付けることができるよう、これからも頑張ります。

